

令和4年度 学校評価アンケート結果、分析・考察と改善方策

上島町立弓削中学校

学校の教育目標は『知・徳・体の調和のとれた生徒の育成』です。

ランドデザインに基づいて、項目を起こしています。

結果：【4＝あてはまる 3＝おおむねあてはまる 2＝どちらかといえばあてはまらない 1＝あてはまらない】

評価：A＝対象の80%以上が4または3 B＝対象の70%以上が4または3 C＝対象の60%以上が4または3 D＝対象の60%未満が4または3

番	対象	評価指標	アンケート結果 (%)				評価	番	評価の分析・考察	今後の改善方策
			4	3	2	1				
1	教職員	「知・徳・体の調和のとれた生徒の育成」の達成に向けて具体的に努力している。	27	73	0	0	A	1	教職員・生徒に関しては昨年度の評価より高くなっている。保護者の評価は昨年度と比べ、わずかであるが低くなっているが、学校の教育方針にはおおむね理解を示していただいていると思われる。	3つの柱のうち、今年度も確かな学力を育てることがまだまだ不十分である。今年度の取組による成果を踏まえ、今後は、まず基礎・基本を身に付けることに重点を置いた取組を考えていきたい。
	生徒	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	44	50	4	2	A			
	保護者	「学校は、『確かな学力・豊かな心・健やかな体を育てる』ために努力している。」と思います。	18	69	13	0	A			
2	教職員	心身ともに元気な生徒を育成するために、教育活動に工夫・改善を行っている。	46	55	0	0	A	2	今年度は、昨年までかなり制限されていた学校行事がほぼ例年通りに行われており、生徒の学校生活における充実感や満足感は向上している。保護者の評価は、昨年度とあまり変わっていないが、やや低下している。	学校行事や生徒会活動において、生徒が中心となって活動することができるような企画の作成や助言を行っていくことが必要である。
	生徒	元気に生き生きと学校生活を送っています。	50	44	6	0	A			
	保護者	「お子さんは、元気に生き生きと学校生活を送っている。」と思いますか。	23	64	8	5	A			
3	教職員	基礎・基本の充実を図り、確かな学力の定着・向上に向けて積極的に取り組んでいる。	36	55	9	0	A	3	昨年度よりやや向上してはいるものの、保護者の評価が低い。教職員・生徒と保護者の間の意識に差がある。生徒は授業の中では学習したことが身に付いていると感じていても、その結果がテストの成績に表れていないこともあるため、保護者から共感を得られていないのではないかと思われる。	今後も、授業での実態把握のもと、朝ドリルや学習タイム、1人1台端末の活用、学習相談などを通して、授業で学んだことの定着度を丁寧に見取りながら、個に応じた指導の充実に努め、基礎・基本を確実に身に付けさせていきたい。
	生徒	学習したことの基礎・基本が身に付いています。	32	58	6	4	A			
	保護者	「お子さんは、学習したことの基礎・基本が身に付いている。」と思いますか。	15	59	23	3	B			
4	教職員	「対話的な学び」に係る授業改善の視点に立った授業づくりに取り組んでいる。	18	73	9	0	A	4	今年度は、参観授業等において、教科の授業を公開する機会が増え、保護者に授業の様子を参観していただくことにより、評価が昨年度より高くなっている。教師の指導についてはICT機器の活用を含め、一定の評価が得られている。	継続して研究授業、自主研修等を通して授業力の向上を図りたい。また、公開授業等を通して、ICT機器の効果的な活用に取り組みたい。
	生徒	先生たちは、わかりやすく教えてくれています。	52	46	2	0	A			
	保護者	「先生は、お子さんにとって分かりやすい授業づくりに努めている。」と思いますか。	23	64	13	0	A			
5	教職員	効果的な宿題の提示や自主学習の在り方など、具体的な指導が成果に現れている。	18	64	18	0	A	5	昨年度同様、教員と生徒、保護者の意識に差があり、教員の考える家庭学習の在り方と生徒・保護者のそれとに相違がある。個に応じた家庭学習の与え方が本校の課題である。	引き続き自主ノートの活用方法や授業ノートの見直しなど基本的なところから地道に取り組む。特にICT機器の有効活用等で、家庭学習における課題の与え方を生徒と共に考えていきたい。
	生徒	家庭での学習が、設定時間(1年1.5 2年2.0 3年2.5)以上達成、又は目標とする学力の定着・向上に成果として現れています。	30	38	22	10	C			
	保護者	「お子さんは、家庭での学習が、設定時間(1年1.5 2年2.0 3年3.5)以上達成、又は目標とする学力の定着・向上に成果として現れている。」と思いますか。	13	46	21	20	D			
6	教職員	学校行事や体験的な活動は、創意工夫・改善するように努めている。	46	45	9	0	A	6	昨年度までのコロナ禍における制限が少しずつなくなってきており、ほとんどの行事においては、ほぼ例年通りの実施方法で活動することができたのが良い評価につながったと考えられる。	様々な行事において、生徒や保護者の提案も聞きながら、計画を立てていきたい。また、地域の方々の協力もいただきながら、より地域に根差した学校行事の在り方も考えていきたい。
	生徒	学校行事や体験的な活動は、充実しています。	68	28	4	0	A			
	保護者	「学校は、学校行事や体験的な活動の充実に向けて努力している。」と思いますか。	21	74	5	0	A			
7	教職員	道徳や学級活動、人権集会などの充実に努め、自他の生命尊重や人権意識の高揚を図っている。	64	36	0	0	A	7	本年度も長島愛生園を訪問することができ、差別の現実に学ぶ機会が持てたことは大きかった。また、人権参観日での人権劇の上演やその後のふれあい学習会での話し合いも効果的であった。	道徳教育を充実し、道徳の授業だけでなく、地域での体験活動や地域の方々や保護者が参加する活動において、生徒が家族や地域の方々と話し合い、考える時間を増やしていくことも必要である。
	生徒	自他の命の大切さを考え、いじめや差別のない学校生活を送っています。	88	12	0	0	A			
	保護者	「お子さんは、自他の命の大切さを考え、いじめや差別をしない行動をとっている。」と思いますか。	64	36	0	0	A			
8	教職員	全校運動(弓削中タイム)や部活動が、生徒の健全育成に向けた活動になるよう取り組んでいる。	36	55	9	0	A	8	放課後の弓削中タイムや上島駅伝に向けて1、2年生全員参加での駅伝練習を実施するなど、体力の向上に取り組んできた。	新体力テストの結果から本校の課題を洗い出し、弓削中タイムのメニューに反映させるようにすれば、より充実した活動になると思われる。
	生徒	全校運動(弓削中タイム)や部活動に一生懸命取り組んでいます。	74	22	2	2	A			
	保護者	「学校の部活動が、生徒の健全育成の手立ての一つとして活動できている。」と思いますか。	38	51	8	3	A			
9	教職員	基本的な生活習慣の育成に向けて、適切に指導している。	46	45	9	0	A	9	教職員・生徒に比べ、保護者の評価が低い傾向にある。就寝時間や起床時間、朝食を食べているかなどの家庭における基本的な生活習慣の乱れが課題であると思われる。	引き続き就寝時間やスマホに関する実態調査から改善策を考え、保護者に啓発していくと共に、学校においても、時間の有効活用の仕方等において生徒の自主的・自律的な行動を促す機会を増やしていきたい。
	生徒	基本的な生活習慣が身に付いています。	54	36	10	0	A			
	保護者	「お子さんは、基本的な生活習慣が身に付いている。」と思いますか。	33	41	23	3	B			
10	教職員	時と場に応じた気持ちのよいあいさつができるよう、適切に指導している。	27	64	9	0	A	10	教職員・生徒・保護者の全てにおいて、あいさつに対する意識は昨年度よりさらに高くなっている。コロナ禍における生活の変化から、少しずつ他者とのコミュニケーションが取りやすくなってきているように思われる。	朝のあいさつ運動や部活動などにおいて「気持ちのよいあいさつ」をすることの大切さを伝え続ける。また、あいさつから相手とのコミュニケーションが始まり、その後の関係発展につながるようにしたい。
	生徒	時と場に応じた(気持ちのよいあいさつ)ができています。	56	38	6	0	A			
	保護者	「お子さんは、時と場に応じた(気持ちのよい)あいさつができています。」と思いますか。	38	54	5	3	A			
11	教職員	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できるよう、適切にと指導している。	55	45	0	0	A	11	登下校時においては、横断歩道を渡る際の一時停止や左右確認、ヘルメット着用などの交通ルールの遵守はほとんどの生徒ができており、交通安全に対する意識が高い。	登校指導や交通安全教室においてはもちろんであるが、危険な場面に遭遇したり見かけた場合は、そのつど指導をしていくことが大切である。そのためには、地域・保護者・小学校との連携も不可欠である。
	生徒	交通ルールやマナーを守って安全に登下校できています。	84	16	0	0	A			
	保護者	「中学生は、交通ルールやマナーを守って安全に登下校できている。」と思いますか。	69	31	0	0	A			
12	教職員	アンケートや教育相談などを実施し、全教職員が協力して、問題の早期発見・早期対応に努めている。	18	64	18	0	A	12	昨年度と同じように、生徒の評価が低くなっている。あゆみ指導や毎月実施している生活アンケートを通して、生徒の悩みに関する実態把握に努めているが、生徒の心に寄り添った関わりを深めていかなければならない。	定期的な教育相談だけでなく、日々の生徒への何気ない言葉かけや、いつでも相談できる体制や雰囲気づくりをしていく。また、小さな問題でも電話連絡や家庭訪問等を行い家庭との連携を密にし、教員同士の情報交換も行う。
	生徒	困ったことがあったら、家の人や先生に相談しています。	48	30	16	6	B			
	保護者	「学校は、お子さんのことで相談した場合、誠意をもって対応している。」と思いますか。	38	49	13	0	A			
13	教職員	自ら清掃活動を一生懸命行い、生徒への指導もきちんと行っている。	46	54	0	0	A	13	生徒数が減少している中で、生徒一人一人の負担も大きくなってきているが、個々の生徒が、自分の清掃場所において責任を持ち一生懸命行うことができています。生徒の清掃に対する意識は、年々上昇してきている。	より良い環境で学校生活が送れるように、今後も継続して短い時間内でも生徒がさらに真剣に、時間いっぱい進んで取り組むことができる態度を奨励することが大切である。
	生徒	清掃活動を一生懸命(黙働、皆働、静働)しています。	82	16	2	0	A			
	保護者	「学校は、校庭や校舎などがいつも美しく清掃や整備がされている。」と思いますか。	51	49	0	0	A			
14	教職員	非常時に適切に対応できるような訓練や指導の充実に努めている。	55	36	9	0	A	14	毎学期違った場面を想定した避難訓練や防災教育を実施して、生徒に避難経路や避難方法の定着を行っている。休み時間や予告なしでの実施をすることで課題が見付かった。	避難訓練が「訓練のための訓練」とならないよう、生徒の危機意識を高めることが大切である。合わせて教職員についても同様に、危機管理意識を高めていくことが大切である。家庭との連携の必要性や訓練の告知も考えていきたい。
	生徒	地震(津波)、火事のときや不審者に出会ったときの安全な行動の仕方を知っています。	50	48	0	2	A			
	保護者	「安心して子どもを預けられる安全面に配慮した学校である。」と思いますか。	33	64	3	0	A			
15	教職員	家庭や地域との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。	18	82	0	0	A	15	保護者の求める情報や連絡が十分に行き届いていない場合があることが、教職員と比べ保護者の評価が少し低いことの原因かと思われる。引き続きホームページの更新、マチコミ、家庭訪問等を通して積極的に連携していく。	今後も継続して学校・保護者・地域が一体となった学校教育の機会を充実させる。学校便りやHP、マチコミ等を有効活用し、生徒の様子をタイムリーに発信していくことが大切である。
	生徒	学校からの保護者へのプリントをきちんと渡しています。	70	22	6	2	A			
	保護者	「学校は、家庭との連携を図るための手段を講じ、積極的に行っている。」と思いますか。	28	56	13	3	A			